

エジプト18王朝

ハトシェプストのせいでファラオになることができなかったが、彼女の死後やっと順番が・・・。
ハトシェプストを恨み、彼女の彫像や名前を破壊。政策も徹底的に否定した。
軍事遠征を活発に行い、パレスチナ方面に遠征。反抗していた国々を屈服させる。
領土拡大により「エジプトのナポレオン」と呼ばれる。



トトメス3世
墓は不思議な
線描画で
装飾されている

スフィンクスを掘り出した人。
王子だったトトメス4世の夢の中に
スフィンクスが出てきて、砂から
掘り出してくれたら王にしようと
言ったとのこと。
この夢のことを書いた「夢の碑文」
がスフィンクスの前に建っている

多神教のエジプトでは、次第にアメン神官の力が強まり、王権を脅かすように。
そこでアメンホテプ3世はアテン神を唯一絶対の神とした。(アメン神官の力をそぐため) さらにアマルナに遷都。アメン神に対する否定を行った。名前も「アクエンアテン」と改名。
この時代、新しい時代に合わせ、自由な芸術が花開き、「アマルナ芸術」と呼ばれる優美で自然主義の芸術が栄えた。王の彫像も、王の特徴をそのまま表現。長すぎる顔や出たお腹など、他の王の彫像とは全く違う。題材も家族のむつまじい姿などが温まるようなものが多い。
しかし晩年は急速な改革の無理がたたわり、政治が混乱。
彼の死後、悪政をしたとして、像や名前が破壊され、王名表からも名前を消される。ラモーゼはこの時代のテーベ市長

エジプト史上最高の美女。
アイの娘という説もある。初期の頃のネフェルティティは壁画に王より多く登場するなど、権勢を誇っていた。
有名な彫像は20世紀はじめドイツ人により発掘され、余りの美しさに隠してドイツに持ち帰り、現在ベルリン博物館に収蔵されている。

ツタンカーメンとの仲むつまじい彫像が沢山残っている。
ツタンカーメンがアテン神信仰を放棄すると同時に自身も改名。アンケセネパアテンからアンケセナーメンとなる。しかし、父アクエンアテンが熱心に信仰していたアテン神信仰も捨てられなかったようで、こっそり信仰していた様子が遺物に残る。有名な玉座にもアテン神のレリーフが入っている。
ツタンカーメンの死後、アイと結婚するのを嫌がってか、宿敵ヒッタイトに「王子を一人ください。結婚して即位させます。召使とは結婚したくない。恐ろしい」という手紙を送っていた記録がある。



トトメス2世の第一王妃。
息子のトトメス3世の摂政という地位にあきらず、自らファラオとして即位。女性ならではの平和外交を展開。でも実際にはヒクソスを数回にわたり攻撃。でもやっぱり戦争は嫌いだったらしく、遠征は息子にやらせている。
素晴らしい葬祭殿が有名。プントから珍しい動物を交易で手に入れる図がある。女王自ら交易のための訪問も！



トトメス3世が死ぬとアジアの各都市で反乱が起きる。怒ったアメンホテプ2世は残虐な報復にでた。シリア北部を平定後、王子7人を撲殺。その遺体を神殿に吊るしたとか・・・

カルナック神殿の第8塔門の裏に敵を打ち据えるレリーフがある。
王家の谷で発見された墓には本人のミイラが入った石棺が残されていた。



先王が築いた財でぜいたく三昧。ハゲでデブ、歯抜けの不細工王だったとか・・・。
葬祭殿を作るが、後世に葬祭殿自体は取り壊され、現在残るのはメンノンの巨像のみ。
スカラベに自分のことを自慢した文を彫刻した「スカラベ新聞」を作り、諸国に配る。
平民出身のティイを王妃にし、寵愛した。



謎の王。2年間アクエンアテンと共同統治したことが書かれた碑文が見つかるが、それ以外の記録がない。
アメンホテプ3世とティイの子という説など諸説ある。
すごいのはネフェルティティ自身なのではないかとの説も。公式のネフェルティティの記録がなくなったのと入れ替わりにスメンカウラーが登場するし、女性名で書かれることもあるので、かなり有力な説。

アクエンアテンの代で混乱してしまっただけを直すために、宰相アイと軍司令官ホルエムヘブに支えられ、即位。
アクエンアテンによって否定されたアメン神の復権、アマルナからメンフィスへ都を戻す。
ハワードカーターが彼の未盗掘の墓を発見。中には生活用品全てが納められ、整理に10年かかった。
財宝は現在カイロ博物館に収められている。
棺の上には矢車草の花束が置かれていた。ツタンカーメンの死を悼んだアンケセナーメンによって置かれたと考えられている。
9歳で即位、17歳で死亡という短い治世だった。
早すぎる死から暗殺説がある。
アテン神信仰のからみで後世王名表から名前を消され、盗掘を免れた。



ツタンカーメンの体に香油を塗るアンケセナーメン

子供がいなかったツタンカーメンの死後、王位継承権を持つアンケセナーメンと結婚。ファラオとして即位する。
アクエンアテンの時代からの宰相で、アテン神信仰にも熱心に付き合っていたのに、王が死ぬとあっさり信仰を捨て、アメン神信仰にもどり、地位を保つ。
ツタンカーメンの死によって最も得をした人で、暗殺の犯人ではと疑われている。西の谷には墓が残るが、ひどく破壊されていて、肖像や名前もほとんど削り取られている。
彼の死後ネフェルティティの妹と結婚したホルエムヘブがファラオとなるが、彼はアテン神信仰の記録を抹消。アクエンアテンからアイまでの王の治世を全て自分の治世として記録した。

